

水産総合研究センター業務の紹介

総務課

センターの円滑な運営のため、施設・財産の維持管理及び総合調整に関する業務を行っています。

企画調整室

試験研究に関する企画調整及び、研究課題の管理・評価に関する業務、研究情報の収集、センター内や外部研究機関などの連携を適切に進めるための調整業務を行っています。
また、所属船舶を効果的に運航できるよう管理・調整しています。



試験研究成果発表会の様子



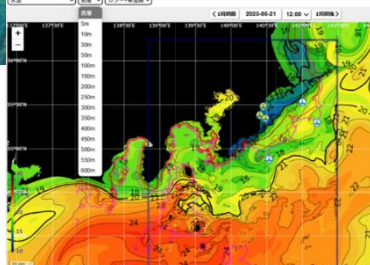
調査船の運航管理

資源研究室

漁業操業の効率化と漁業経営の安定を図るため、漁海況データを収集・解析し、現況及び予測情報として迅速に提供しています。
また、水産資源を持続的に利用するため、資源の評価・管理に関する調査研究及び、種苗放流技術の開発と放流効果調査を行っています。

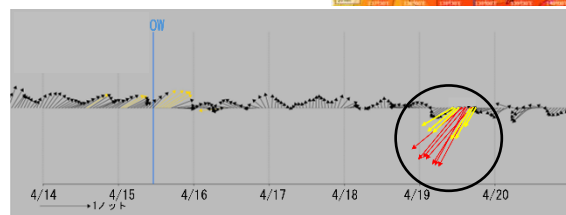


潜水によるアワビ資源調査



海況予測システム

急潮予測



東京湾漁業研究所

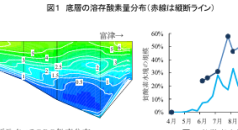
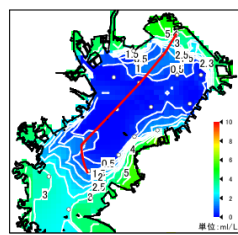
東京湾ののり養殖の技術指導及び品種改良などに取り組むとともに、アサリなどの貝類資源の生態調査及び増殖手法の開発、適切な資源管理のための技術指導などを行っています。

また、東京湾の水質及びプランクトンを調査し、「東京湾海況情報」、「貧酸素水塊速報」として公開するとともに、資源増大のため、水産生物と漁場環境の関係について研究を行っています。

貧酸素水塊速報 (2024年)

令和6年9月18日観測結果

貧酸素水塊は内湾全域に分布し、DO0.5 ml/L以下の無酸素状態で還元状態の海域が広がっています(図1)。
観測ラインの鉛直分布をみると、その規模は52%で、9月中旬としては直近10年で最大です(図2,3)。
表層水温28～29℃、底層水温19～20℃、表底差は最大3℃でした。
北寄りの風が弱くと、大規模な育鰓が発生しますので、十分注意してください。



貧酸素水塊速報等の発行



養殖ノリの生育状況調査



張網



魚介類相調査



ホンモロコの養魚指導



内水面水産研究所

河川湖沼に生息する有用魚類の生態及び資源増殖技術の開発、生息環境などに関する調査研究を行うとともに、漁場環境の保全や種苗放流技術の普及・指導を行っています。

また、内水面養殖業の振興を図るため、養殖管理技術の指導や魚病診断を実施しています。

生産技術研究室

漁場環境の保全及び漁場生産力の増大を図るため、磯根漁場の藻場消失原因の究明と対策指導、人工魚礁の機能調査及び、外房沿岸域の漁場環境調査などを行っています。
また、海産魚介藻類の養殖技術の指導、放流用種苗の疾病診断及び、トラフグ、ナマコといった新たな種苗生産技術の開発を行っています。



藻場消失原因調査 (ブダイによる摂食を確認)



ナマコ種苗生産試験 (上 種苗生産中のナマコ) (下 放卵誘発物質の注射)



人工魚礁調査に使用する ROV(水中テレビロボット)

流通加工研究室

消費者が求める高品質な水産物を供給するため、品質保持技術の開発及びマサバなど多獲性魚を原料とした新たな水産加工品を開発する研究などを行っています。
また、加工技術及び品質管理に関する普及指導を行っています。



水産加工品成分分析



生タイプしめ鯖の開発

富津生産開発室

水産資源の増大を図るため、富津生産開発室ではヒラメ、マコガレイ、勝浦生産開発室ではマダイ、アユの放流用種苗を生産し、漁業関係団体へ配布するとともに、良質な種苗を大量生産するため、稚魚の飼育法や魚病対策、餌料生物の安定培養などの技術開発を行っています。
また、栽培漁業に関する技術の指導並びに知識の普及を行っています。



※施設改修工事に伴い、ヒラメ、マコガレイの種苗生産は休止中。

種苗生産中のヒラメ仔魚

ヒラメ成魚



ふ化直後のマダイ仔魚



放流後のマダイ種苗

種苗生産研究所

勝浦生産開発室